

みなさんと
ともに
市議6期、
県議1期

弱いものいじめの政治を許さない
初心貫きます！

私の初立候補は1983年の市議選です。私にも共産党にも、当選の力はない時代でしたが、政治の歪みを正し市民の願いを実現する政策を掲げ、誰もが安心して暮らせる名古屋市をめざして頑張ろうと決意しました。

選挙戦では、かつて国民が運動で勝ち取った老人医療無料制度を国が廃止する動きに、「絶体許せない！」と怒りを込めて訴えました。

その私を食い入るように見ていたお年寄りが、「お願いしますよ」と涙ぐみながら私の手を握って離そうとされませんでした。その時、一生懸命応援していただいても力不足で期待に応えられないと思っていた私は本当に申し訳なくて、一緒に涙を流しました。

それからは「何としても議席を」とがんばり、43歳で初当選できました。それ以来、子ども、不安定雇用の青年、女性、障がい者など、弱い立場で頼るものもない方たちに接するたび、政治はこの人たちにこそ寄り添い、力を注ぐべきだと肝に銘じてきました。

自公政権のもと県政、市政も、「住民が主人公」どころか、ますます格差、弱者いじめがひどくなっている現在、

「ここで引くわけにはいかない！」この選挙、私自身の集大成として総力を尽くします。

YouTube



【私の歩んだ道】南押切小、天神山中、西陵商業高校卒業。商事会社に就職後、結婚し退職とともに地域のPTAや女性運動(新日本婦人の会)で活動。1991年、市議員初当選以後6期連続当選。2015年、愛知県議当選、1期。日本共産党市議団長、党愛知県委員など歴任。(住所)名古屋市西区則武新町一丁目 [家族] 夫、一男一女

野党不在、県民不在の県政から くらし・教育優先、 平和の愛知に

- 県と市の連携で給食費無料
- 高校・大学生に返済不要の奨学金
(自宅2万円、自宅外4万円)
- 奨学金返済に年10万円の支援制度
- 国保に県補助を復活し国保料を大幅引き下げ
- コロナ融資の返済の猶予、軽減、免除
- いのちと暮らしを壊す国の「大軍拡・大增税」反対

財源はあります

- 全国2位の財政を組み替え活用
- 大企業優遇の助成を大幅整理



名古屋市議選予定候補者
加藤ゆうき

子どもの頃からポスターで知っていたレジェンドと一緒に活動をし、改めてその多大な功績に驚嘆しています。「西区の守り神」と言われる先輩の後を追ひ、私もその域に到達できるよう日々精進します。

西区民報

2022年12月号外 日本共産党西区委員会
西区押切1-1-11 ☎052-532-7965
日本共産党とわしの恵子の活動を紹介します。

共産党の県会議席
何としても
取り戻させてください

前県議会議員

わしの 恵子

日本共産党

私の集大成

ここでひげない

こんなに大違い、やっぱり県会にわしの恵子さんを!

“開かずのトビラ”が開いた!

わしのさんの当選に、全県下から堰を切ったように要望や相談が殺到し、請願は前の4年間の7倍にも。市町の議員と連携して実現に取り組みました。

日陰のくらし、教育につぎつぎ光

住宅改修、学校長寿命化予算増額 県政に出たわしのさんが驚いたのは、大村知事がふだんから言う「大愛知」で県民生活の施策は日陰に置かれていたこと。学校の教室不足やトイレ等の老朽化、酷暑の教室、危険なブロック塀、ボロボロ県営住宅等々に光を当て、次々に改善させ、100年かかる計算だった特別支援学校のエアコンは2年で完全整備させました。

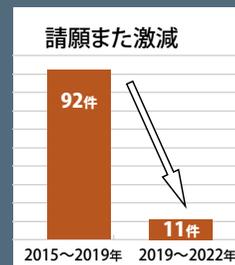
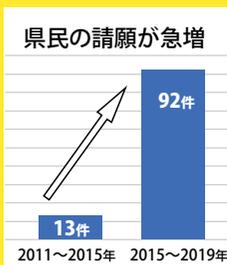
授業に傘、“民族移動”も 名西高校では古いトイレのあまりの汚さに、付近のコンビニへ借りに走るとか、教室の雨漏りがひどくて授業中に傘をさしたり、ときには丸ごと教室を移る「民族大移動」(校長先生)までも。そうした実態を議場でリアルに示して迫ったわしのさんの訴えで、学校整備予算が毎年増額されていきました。

お母さんの陳述、与党議員動かす 「授業が聞こえない中軽度の難聴児にも補聴器購入の補助を」という声を聞くやすぐに調査、研究し、母親に議会審議の場で直接訴えてもらうことも実現。わしのさんだけではなく、自民党の議員もこれに動かされて当局に迫るなか、補助を実施させることができました。

議会らしい活発な議論が

議員が少ない共産党が本会議で質問できたのは年2回でしたが、常任委員会では縦横に論戦。今まで「異議なし」だけだった与党も発言するようになり、議会が活性化しました。

あつた時 日本共産党の 県会議席が なくなったら...



ここが日本共産党の わしの恵子の強み

●まず現場を見て声を聴く

東海豪雨のとき、直ちに現場に急行し、連日あと片づけや炊き出しをしながら、行政の制度のフル活用を求め続けました。地震で危険なブロック塀を調査し、次々改善させました。



●住民の運動と協力し議席の力倍増

要求や問題を知ったらすぐ、住民に呼びかけ署名運動など当局への要請活動を行います。

●調べ抜いて迫る鋭い論戦

住民の立場で法律、制度の改正にも突っ込んだ、災害被災者支援や土壌汚染問題の追及などは、与党議員を「よう勉強しとるな」とうならせました。



県民の声を門前払い

県民の請願が再び激減。人口当たりで教育予算が全国最下位、介護老人施設47位、保育所44位、一般病院病床数45位、看護師数43位等々、教育、医療、福祉が日陰に置かれ、議会でほとんど議論もされません。

大企業優遇、失敗にも無反省

大村知事が「リニア、ジェット、FCV(燃料電池自動車)、ロボット…」と繰り返し、大企業が栄えれば末端の県民まで滴が届くとしてきた施策はけっきょく格差を広げただけ。国産ジェット旅客機は三菱自身がギブアップ状態で、国の数百億円をはじめ、課税の特例や利子補給で注いだ県の補助も無駄になりかねません。

オール与党でチェック働かず

いま大問題の旧統一協会と自民党の政治家との癒着問題は県下でも、大村知事や名古屋の河村市長をはじめ国会議員、地方議員にまで大きくひろがっています。ところが、県議会ではこれを問題にする議員がゼロ。県民の信頼にも外れるなれあいです。